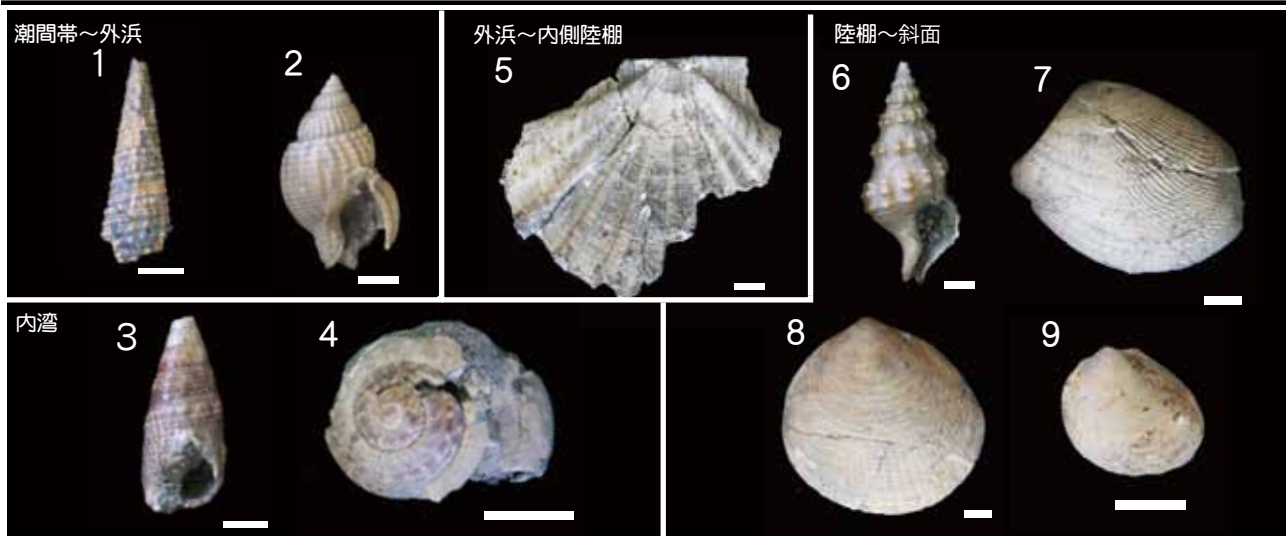


根古屋地域の化石

横山謙二・前 朝琉



根古屋層の化石密集層から産出した主な化石. 1. カニモリガイ, 2. ムシロガイ 3. ウミニナ, 4. イボキサゴ, 5. イタヤガイ, 6. ナサバイ, 7. オオキララガイ, 8. ベニグリ, 9. ナミジワシラスナガイ

静岡市南部、駿河湾に面したところにある有度丘陵には、貝化石やナウマンゾウの化石が産出することで知られています。久能山東照宮西の根古屋地域を流れる千保沢川流域にも多く貝化石が採集できる場所があります。

千保沢川流域は、主に泥層からなる根古屋層とその上位に重なる主に礫層からなる久能山層が分布します。化石を多く含むのは根古屋層です。特に多く含まれるのは、Ng-2とNg-4と呼ばれる火山灰層が挟在する周辺に多く含まれています。今回は、このNg-2火山灰層の5m下位に挟在する化石密集層から産出した化石について報告します。

この化石密集層を挟在する泥層は、時折、重力の作用による流れで堆積した砂層や礫層を挟在します。しかし、この化石密集層は、礫や砂を含むものの、堆積物重力流のような流れで堆積したものではなく、長い時間をかけてゆっくりと沈殿し堆積した泥と周辺から極まれに落ちてくる礫や生物の死骸が蓄積したもののようです。おそらく、海底に供給される碎屑性堆積物が非常に少なかったため、生物の死骸が目立つようになり、このような化石密集層を形成したと考えられます。

この化石密集層の化石は、ムシロガイやナミマガシワなど潮間帯から外浜に生息する種群、マキモノシャジクやイタヤガイなど外浜から

内側陸棚に生息する種群、ベニグリなどの陸棚から陸棚斜面に生息する種群の多様な環境の種群で構成されています。中でも陸棚域から陸棚斜面に生息する種群は種数も多く産出し、ベニグリなどの二枚貝は合弁し保存の良い状態で産出することがあります。対して、波浪の影響が強い外浜から内側陸棚に生息する種群は産出数も少なく、破片状や著しく摩耗を受けていたり保存状態が悪いのが特徴です。また現在の久能山・安倍川周辺海域には生息していないイボキサゴやウミニナなど内湾に生息する種群も含まれています。現在の久能山周辺の海は、安倍川が流れ込み、たえず土砂が海底に供給されるような環境ですが、これらの化石が産出したことで、この化石密集層が堆積した当時は、河川からの堆積物の供給が少なく、その供給源に内湾環境があったことがわかります。

産出したこれらの化石を現在の駿河湾の貝類遺骸群集と比較すると、安倍川や大井川沖のファンデルタ堆積域とは異なり、内浦湾沖などの河川の影響の少ない、水深100m付近の環境に集積した群集に似ています。このことから、この貝化石密集層は、ファンデルタが発達する河口より離れたところ、または内湾などの堆積速度が遅い水底下に堆積したものと考えられます。